



Intrinsic atopic dermatitis shows high serum nickel concentration

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2020-04-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山口, 隼人 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003693

論文審査の結果の要旨

アトピー性皮膚炎（AD）は慢性炎症性皮膚疾患であり、近年、外因性 AD と内因性 AD の 2 つに分類する考え方が提唱されている。外因性 AD は皮膚バリア障害が顕著で、血清 IgE 値高値と環境アレルゲンに対する特異的 IgE 値の上昇を認め、Th2 型の免疫反応を示す。一方、内因性 AD では皮膚バリアが比較的保たれ、血清 IgE 値はほぼ正常で、特異的 IgE 値の上昇は認めず、Th1 型の免疫応答が優位である。外因性 AD の原因抗原としては、ハウスダストなどの蛋白抗原が知られているが、内因性 AD の原因抗原はまだわかっていない。申請者らは、先行研究にて、内因性 AD 患者においてニッケル（Ni）などに対する金属アレルギーを高頻度に認め、また、汗中 Ni 濃度が高値であることを見出し、内因性 AD に Ni などの金属が関与しているとの仮説を立て、本研究を行った。

AD 患者 17 人（内因性 5 人、外因性 12 人）、健常人 17 名を対象とした。内因性 AD と外因性 AD の 2 群間において、血清 IgE 値、好酸球数、かゆみの Visual analogue scale は外因性 AD が高く、年齢、血清 Thymus and activation-regulated chemokine 値、Severity scoring system of atopic dermatitis を用いた AD の重症度は両群間に有意差は無かった。血清 Ni 濃度(平均±SD、ng/mL) は、内因性 AD 群で健常人より有意に高く (2.79 ± 1.90 vs. 0.40 ± 0.93)、また Ni 負荷 (1 枚当たり 470 μg の Ni を含有するチョコレート 1/2 枚を 4 日間連続摂食) を行ったところ、内因性 AD 群で 3.59 ± 0.47 、外因性 AD 群で 2.05 ± 2.87 、健常人で 0 ± 0 であり、健常人、外因性 AD 群に比較し内因性 AD 群で有意に高値を示した。

以上より、申請者は、内因性 AD 群では血清 Ni 濃度が Ni 負荷前、負荷後共に高いことを見出し、内因性 AD 患者では Ni の吸収が亢進しており、恒常的に血中 Ni 濃度の上昇が生じ、これが Ni に感作されやすい状態を惹起し、本疾患の病態と関連している可能性があることを示した。

本研究は、内因性 AD 患者において、血清 Ni 濃度が高値であることをはじめ示し、さらに内因性 AD の原因抗原としての Ni の重要性を示唆する研究として、審査委員会では高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 須田 隆文

副査 峯田 周幸 副査 永田 年